



北っ子

子どもたちを笑顔で迎え 笑顔にさせ
家庭・地域に帰します!

- ◇教育目標：人・社会・未来へつなぐ Well-being
- ◇重点目標：学ぶ楽しさを見つけ、よりよい考えを表現できる子の育成

気づいて 受け止め つなぎ 支える

校長 大野 昌 広

令和7年度の締めくくりとなる第3学期がスタートし、早いもので約1か月が経ちました。校庭にこんもりと積もった真っ白な雪や吐く息の白さに冬の深まりを感じますが、それを吹き飛ばすような元気な声が、今日も校舎のあちこちに響き渡っています。厳しい寒さの中でも顔を赤らめて雪遊びやスキー学習に励み、仲間と笑い合う北っ子たちの姿は私たち教職員にとっても大きな活力の源です。

さて、学校では今、一年のまとめの時期を迎えています。第3学期は学年の学習や生活の総仕上げを行うと同時に、4月からの新しい環境への期待と不安が交錯する「心の端境期（はざかいき）」でもあります。私たちは教育のプロフェッショナルとして、そして子どもたちの成長を共に見守る伴走者として、第3学期の実践テーマに「気づいて受け止め つなぎ 支える」を掲げ、子どもたちと向き合っています。

1 《気づいて》：日常の中に隠れた「心のサイン」を見守る

子どもたちの心の変化は、必ずしも言葉になって表れるとは限りません。むしろ、何気ない行動やふとした表情の中に、その子の「今」が静かに隠されています。「朝の挨拶の音がいつもより少し低い」「食欲が落ちている」「以前より学校の話をしなくなった」「逆に、妙にはしゃぎ過ぎている」……。これらは、うまく言葉にできない不安や葛藤が、無意識のうちに溢れ出した大切なサインかもしれません。私たち教職員も、プロとしての感度を研ぎ澄ませ、学校生活における「小さな変化」を敏感に捉えていきたいと考えています。ご家庭や地域の皆様におかれましても、日々の関わりの中で感じる「いつもと何かが違う」という直感を、ぜひ大切になさっていただければ幸いです。その微かな気づきこそが、子どもを孤独から守り、安心へとつなぐための確かな第一歩となります。

2 《受け止め》：安心感を育む「心の安全基地」として

子どもが不安や弱音を口にしたりするとき、私たちはつい「そんなこと言わないの」「頑張りなさい」と、すぐに励ましたり、解決策を提示したりしがちです。しかし、この時期の子どもたちが一番に必要としているのは、自分の気持ちをまるごと認めてもらえるという安心感です。「そうか、不安なんだね」「次は頑張りたいと思っているんだね」。まずはその感情を否定せず、そのまま受け止めること。学校と家庭や地域が、子どもにとって「どんな自分を見せても大丈夫な場所（安全基地）」になれば、子どもたちは自然と自分自身で立ち上がるエネルギーを蓄えていきます。

3 《つなぎ》：学校と家庭・地域、そして「次の学年」へつなぐ

この3学期において、最も大切なのが「情報の共有」です。学校での様子、ご家庭や地域での様子、それぞれで見える子どもの顔は異なります。どんなに小さなことでも構いません。気になることがあれば、ぜひ学校へお伝えください。担任一人が抱えるのではなく、学年全体、そして学校全体で共有し、組織としてお子様を見守っていきます。また、この時期に私たちが丁寧に行うのが「引き継ぎ」です。今年度、お子様がどのような壁を乗り越え、どんな成長を遂げたのか。その大切な「バトン」を、次の学年の担任や進学先へと確実につないでまいります。一過性の指導で終わらせず、連続性のある支援を行うことが、子どもたちの安心感へとつながります。

4 《支える》：自分の足で歩き出す力を信じ、伴走する

教育の最終的な目的は、子どもたちが自分の足で一步を踏み出す「自立」です。私たちが目指す「支え」とは、先回りして障害物を取り除いてあげるではありません。転びそうな時にそっと手を貸し、もし転んでしまっても「大丈夫、また立ち上がるよ」と横で励まし続ける「伴走者」であることです。「自分ならできる」「失敗しても大丈夫」という自己肯定感。これを育むためには、具体的な成功体験への賞賛だけでなく、挑戦しようとしたプロセスへの共感が必要です。子どもたちが「自分の力で乗り越えた」という自信をもって4月を迎えられるよう、私たちは最後まで粘り強く支え続けます。

北っ子たちが、「自分ならできる」「失敗しても仲間や大人が助けてくれる」という自己肯定感や自己効力感など、しなやかな強さを身につけられるよう、具体的な実践を積み重ねてまいります。一年の仕上げとして、「自分はこんなに成長したんだ」という自信を胸に、胸を張って卒業式・修了式を迎えられるよう、私たちは最後まで全力で伴走します。本校の教育活動へのご理解とご協力を引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

～4年生から、保護者・地域のみなさんへ～

4年生総合「住みよい町に」

環境をよりよくする取組

〔環境問題について〕

私たちは、総合的な学習で5つの環境問題について調べました。森林破壊、地球温暖化などです。環境問題の原因は色々ありますが、多くは人が関わっていて、人が作った工場や車の排気ガス、人のごみのポイ捨てなどだとわかりました。環境問題を少しでも解決するために、日本を含めた世界中で様々な取組が行われています。私達、4年生にもできる取組があります。身近なことから始めていくことやみんなで協力することの大切さを学びました。ぜひ参考にしてみてください。

〔私達みんなのできる取り組み〕

1、節水

- ・水をこまめに止める
- ・シャワーの時間を少なくする
- ・洗濯は一気にする

2、節電

- ・テレビの音を小さくする
- ・使っていないテレビ、電気を切る
- ・使っていないコードは抜く

3、ゴミを減らす、分別する

- ・エコバックを使う
- ・3R(リデュース、リユース、リサイクル)
- ・新聞紙を活用する

★『新聞紙』でエコバックとスリッパ作り★

私たちは総合の特別授業で旭川NPOサポートセンターの古川さんに新聞紙エコバックの作り方を教えてもらいました。実際に作ってみると、とても簡単だし便利だと思いました。また、新聞紙には他の活用方法もあります。例えば、掃除の時に窓を拭いたり、ぬめり防止のためにシンクに引いたりすることができます。新聞紙でスリッパも作ることができます。このスリッパは簡単に作れて、災害の時に床に落ちた破片などを踏まずに移動することができます。このように、新聞紙を使って色々なものを作ると、エコにもなるし、お金の節約にもなります。参観日のときに、エコバックとスリッパをPTA玄関の入り口付近に展示します。皆さんもぜひ使ってみてください。



★プルタブとペットボトルキャップを集めます★

環境をよりよくする取組にご協力をお願いします。

2月16日(月)～27日(金)に、1階玄関前にあるグッピーの水槽の横に箱を置くので、入れてください。